



大和市立緑野小学校
学校だより 10月号



みどりの

令和2年9月30日

力を合わせて

校長 稲葉 敦子

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、夏の暑さも落ち着いてきたため外での活動の制限もなくなり、スポーツの秋にふさわしい季節となりました。夏の暑い時期は、体育の授業を控えたり、休み時間に校庭で遊ぶこともできない日が続いたりしましたが、9月中旬からはそれもなくなり、休み時間には校庭で楽しく遊ぶ姿が見られるようになりました。体を動かすことは大事です。外でたくさん遊んで健康な体を作ってほしいと思います。

さて、先日中学校では運動会が行われました。新型コロナウイルスのために時間を短縮し、種目の内容も工夫しての開催でしたが、中学生が生き生きと競技をしたり、笑顔で演技したりする姿を見ることができました。中でも3年生の演技で集団行動やダンスをする様子を見ましたが、学年で一つのことを作り上げる姿に胸が熱くなりました。

もう一つ、新型コロナウイルスに関連したことで、9月の4連休の間に埼玉県立川越高校水泳部の男子シンクロの取り組みを密着取材した番組がありました。この高校は、「ウォーターボーイズ」のモデルになった高校だそうです。部活動についてはコロナの影響があり、どこの学校も思うように活動できない時期や内容があることはこれまでも耳にしていた、報道等でも数多く取り上げられていました。川越高校でもこれまで、男子シンクロの発表会は2日間で11回公演し、のべ1万5000人が観覧していたそうですが、今年は、2回のみでの公演でした。観覧者も生徒と部員の保護者のみと制限し、観覧者のマスク着用、手指の消毒など感染予防対策を計画することで、学校に公演の許可をもらいました。練習期間もコロナのために短くなりましたが、その中で最善を尽くし本番に向けて練習を行ってきました。途中けがをする者がいたり、ジャンプや4段タワーなど演技がうまくいかず壁にぶつかったりと苦難がありましたが、部員同士が力を合わせてがんばろうという思いが強くなっていき、満足いく演技ができました。コロナ禍で多くの規制がされる中、どうしても公演を許可してもらえないかを自分たちで考え計画し、苦しくても何回も練習し、壁を乗り越えて満足できる結果を得られたことは、この高校生たちの将来の力になることに間違いないと確信しました。同時に、それを経験できる場所が学校であることも再認識しました。中学生・高校生になってこのような力を発揮するためにも、小学校でも友だちと力を合わせ、一つのものを作り上げる喜びを経験できるよう取り組んでいきたいと思えます。

今年は、市内小学校では運動会が中止となりましたが、本校では、10月15・16日に体育発表会を行います。各学年とも表現運動に取り組み、練習も本格的に始まります。当日は、力を合わせて最高の演技を見せてくれることを期待しています。